

■令和8年5月定例記者会見

日時：令和8年5月21日(木)午後2時～3時

場所：吹田市役所高層棟4階特別会議室

【市長挨拶】

よろしくお願いたします。

お忙しいところ来ていただきまして、ありがとうございます。

せっかく来ていただきましたので、議会関係の行政的な情報、これは後から職員からさせていただけますけれども。

1つご報告をしておかないとあかんのが、吹田市という自治体が今、客観的にどう見られているかというのが数字で出てますので、ちょっと一例として。

ただし、これね、切り口として報道してほしくないんですよ。なんでこれが起こってるのや、昔はどうやったの、他はどうやねん、今後どうなるねん、その視点からご活用いただきたいんですけども、その一つの数字が職員採用試験の競争倍率です。

各マスコミの皆さん方のところの倍率は知りませんが、ちょっと異常な数値が継続的に出てます。

というのは、一般事務職の職員の採用倍率、応募者数、応募倍率なんですけれども、大体これまで10倍ぐらいで来てました。これももうめっちゃめっちゃ高いんですけど、平均で3倍きってるんですけど、それが一昨年30倍になりました。

去年40倍を超えました。これが私の知ってる限り、全国で最も高いですね。

その30倍になった時に、募集した人員に内定辞退者を入れますよね。予備を。それで採用オーバーになって、去年は減らした。余計に倍率が上がって、それも内定辞退者ほぼ0。

それちょっとデータでちょうだいと言って人事に聞きまして、詳しくはまた取材していただいたらいいんですけども、最新応募倍率が40.5倍です。

そして、その中の大学新卒者を対象とした区分では64.9倍。一体何が起こっているねやと、こっちもよく分からないんですけど。

ちょっと心当たりで言いますと。

もちろんこれきいてるんですけど、結果に。

地域手当っていうのはあります。東京都 23 区の次は吹田市ですから、そういうのもうみんな知ってます。受験生は。言うても、倍半分の話じゃないんで、それだけでは説明しきれない。

もう一つがゼロハラスメント。今やっぱりそこは気にされていると思うんですけど、ハラスメントのない職場、ここにするまで 10 年近くかかったんですけども、今現在、胸を張って言えるんですけど、個別案件はもちろんあるんですけど、風土としてハラスメントは非常に激減している手応えがあります。

それと、開発もそうなんですけれども、動き続ける自治体です。

縮小して、とにかく今我慢して嵐が過ぎ去るのを待とうみたいな、この財政的な危機を乗り越えようというのと全く逆のところに働きがいを感じる人も多いやろうと。

逆にしんどいんですけどね、仕事は。そういう意味では。

そういう情報を世間に出すのが、昔は 1 対 1 で話を聞いたりしとったんですけど、インフルエンサーの存在が大きいですね。それが SNS にあげる。

AI にもその情報がいって、試しに AI にいろいろキャッチボールすると、吹田と豊中、北部、箕面みたいなのが一発で出てきて、さらに交通利便性とか、どうのこうのを入れたしたら吹田がヒットします。

おそらく今の若い人たちは、そういうところで情報を集めてきているんだろうなと思います。

自治体の有名な研究者が吹田にその調査研究、ヒアリングに来られました。

その因子は複数あるんですけど、どれが効いてるんやっていうのを。

我々、まあこれ以上は倍率上げようとか全然思っていないですけど、興味はあります。

これね、いっぱいちょっと余談でなんですけれども。この間、聞いてびっくりしたんですけど、国家公務員の 1 種とおって、都道府県 1 種とおって。

国家とおって、都道府県とおって、政令市とおって、この辺の近所の政令市ですね。

吹田落ちたんですよ。何を落としてんねんいうて。

基礎自治体で必要とされる資質と国家公務員とまた違うわけですから。そういうこと
って昔は絶対、我々の頃はなかった。

受験者数、絶対数そのものも1,741自治体がありますけど、そのうちのトップクラス
の7位とのことです。

これは採用数が違う、人口も違うので一概に言えませんが、ほぼトップです。

プラス、さっき言いました内定辞退者が令和7年で30人中3人、これまで25%ぐら
い、4人に1人とかいう比率やったんですけど、今もう1割、ないしはそれを切る。
よっぽど事情があるのか。

大学新卒者を対象にした区分では0です。辞退者は0です。

依願退職者も、これまでの3年間の採用133人中6人。ほぼ退職はされない。転職ブ
ームですけど。

これは倍率高いのくぐって、そこで採用された人が、そう簡単に辞めたら損やという
心理がおそらく働いているんじゃないかなという気はしています。

採用試験説明会に私必ず行くんです。説明会でかなりの人数が来るんですけども。
2回に分けて説明するんですけども。

必ずしも来てくれとは言いません。今日の話聞いて来たいと思ったら来てくださ
い。一緒になって仕事をできたら嬉しいです。

そこで、採用試験の科目を変えたり、時期を変えたりして、なんとかしてかき集める
とかというのはなくて、本気で来たい人に来てもらうっていう。いやらしい話ですけ
どね。という、今、吹田市そんな状況になっていると。

全然今日の記事でもなんでもないんですけど、また機会があれば深めていただければ
と思います。

はい、挨拶に変えさせていただきます。